

輸出茶栽培に対応した耐病性品種における減農薬防除体系

チャ耐病性品種「せいめい」、「さえあかり」では、主要病害の発生がほとんど無く、殺菌剤を大幅に削減可能

背景・目的

- ・輸出茶栽培では、輸出相手国の残留基準値(MRL)に対応した農薬の使用が必要
- ・台湾等では、日本よりMRLが低く、登録農薬も少ないため、残留基準の超過や使用農薬の制限が課題
- ・耐病性新品種「せいめい」、「さえあかり」を活用し、殺菌剤を大幅に削減した防除体系の実用性を検討

成果の内容

- ・「せいめい」、「さえあかり」圃場では、殺菌剤を大幅削減した防除体系で炭疽病、輪斑病、新梢枯死症の発生はほとんど認められない(表1)
- ・「さえあかり」では網もち病の発生が認められる(表1)

表1 主要病害(炭疽病、輪斑病、新梢枯死症、網もち病)の発病葉(枝)数(令和4~5年)

調査年	品種	一番茶 摘採残葉		二番茶 摘採残葉		三番茶 摘採残葉		秋冬番茶 秋芽生育期		秋冬番茶 摘採整枝後
		炭疽病 発病葉数(枚/m ²)	炭疽病 発病葉数(枚/m ²)	炭疽病 発病葉数(枚/m ²)	輪斑病 発病葉数(枚/m ²)	炭疽病 発病葉数(枚/m ²)	新梢枯死症 発病枝数(本/m ²)	網もち病 発病葉数(枚/m ²)		
R4年	せいめい	(0.0)	(0.4)	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0		
	さえあかり	(0.0)	(0.0)	0.0	0.8	0.0	0.0	23.7		
	やぶきた	1.3	(5.7)	2.3	0.7	1.3	0.0	0.0		
R5年	せいめい	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	さえあかり	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	やぶきた	1.5	—	1.8	14.7	0.2	9.3	0.0		



「さえあかり」に発生した網もち病の罹病葉

注1) 数値は3反復の平均値、「—」は更新により調査データなし、
2) ()は隣接する同品種・同防除体系圃場の調査結果

「さえあかり」に発生する網もち病には、インダーフロアブル(DMI剤)の秋芽3~5葉期の1回散布、または、銅水和剤の秋芽1葉期及び3葉期の2回体系散布が効果的である(図1)

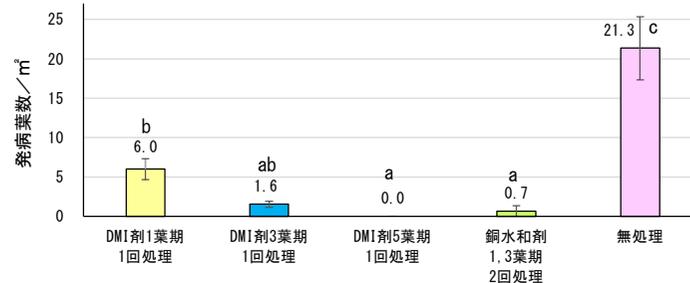


図1 「さえあかり」に発生した網もち病に対する防除効果

注)異なる英小文字間は有意差あり(Tukey法 $p < 0.05$)

期待される効果

「せいめい」「さえあかり」栽培圃場

殺菌剤を減らした防除体系の実践

年間を通して生産量・品質を維持
+
台湾・米国の輸出に対応可

生産者の経営安定



「せいめい」



「さえあかり」

【写真】農研機構 果樹茶業研究部門 枕崎茶業研究拠点 提供

○普及対象・範囲

県内輸出茶生産者及び茶業技術員

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部病理昆虫研究室

(国際競争力強化技術開発プロジェクト) (R05)